

元助役 幅広く影響力

福井県幹部へ贈答品

10/7 朝日

関西電力幹部らが福井県高浜町元助役の森山栄治氏（3月に90歳で死去）から多額の金品を受け取っていた問題で、森山氏は県の幹部にも贈答品を渡していたと、複数の元県幹部が朝日新聞の取材に証言した。森山氏は「県との関係も特別」（関電の報告書）とされ、広く影響力が及んでいた実態が浮かぶ。

▼1面参照

県関係者によると、受け取っていたのは高浜町などを管轄する嶺南振興局長を務めた元幹部ら。元幹部の1人は朝日新聞の取材に、就任時に森山氏が住んでいた京都市まであいさつに訪

れた際に受け取ったと証言した。「儀礼の範囲を超え」と判断し、お中元とかお歳暮とかの時に少し値段の高い物をお返しした」と説明した。

県によると、県の公職と

と原発 関電 マネー

して、森山氏は40年以上にわたって客員人権研究員を務め、人権施策のアドバイザー的な存在だったという。元幹部は便宜供与などは否定した上で「年に1、2回研修でお世話になる『先生』。誰にも相談できず、本心に難しかった」と話した。

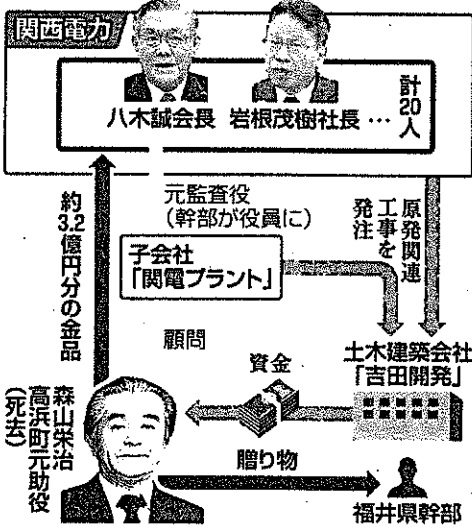
自身も金貨やスーツ仕立券などを受け取った八木誠会長は朝日新聞の取材に「（森山氏は）地元の有力者。機嫌を損ねては原子力

事業に大きな影響があると、森山氏はなぜ多額の金品を配ったのか。報告書では、関電側の認識として①独特の権威誇示②森山氏が重視する「礼儀」の実践③自分を中心とする人的ネットワークの維持④の3点を挙げ、「自己顕示欲の表れ」と考える人もいたと記している。ある関電OBも「キーマンに対して金を渡すことで自分

では「県の客員人権研究員として、原子力事業本部が主催する幹部人権研修に県幹部を招聘している。その場では県幹部も森山氏を丁重に扱う一方、森山氏が県の職員を叱責することがあるなど、県との関係も特別」と記す。県の元幹部は「当然返すべきだし、仮に断られても、（原発のようなものが）何もないので返せるが、関電は『反対するぞ』と言われれば原発ができず、返せなかったのだらう。県とは構図が違う」と話す。

森山氏は、八木会長らも監査役に名を連ねていた関電子会社の関電プラントの顧問を務め、同社から吉田開発に工事が発注されていた。（八百板一平、平野尚紀、山本孝典）

金品提供の流れ



また、別の元幹部も「盆か暮れに1万円ほどのつくだ煮が送られてきて、何を返そうか悩んだ」と証言。「礼儀を重んじるというか、そういう意味では徹底していた」と話した。

関電が2日に公表した報告書によると、関電幹部らは森山氏との面会で土産や昇進祝いなどの形で

お礼にもなり、受注を優位に運ぶことにもつながりうる」と話す。その上で、交付金が絡む原発政策を問題視し、「カネと引き換えに『迷惑施設』を押しつけるやり方が、説明がつかないカネのやり取りを作り上げてきた。徹底的に調べて断ち切らないと、不健全な関係はなくなるなら」と話す。（大浦俊哉）

お礼にもなり、受注を優位に運ぶことにもつながりうる」と話す。その上で、交付金が絡む原発政策を問題視し、「カネと引き換えに『迷惑施設』を押しつけるやり方が、説明がつかないカネのやり取りを作り上げてきた。徹底的に調べて断ち切らないと、不健全な関係はなくなるなら」と話す。（大浦俊哉）

お礼にもなり、受注を優位に運ぶことにもつながりうる」と話す。その上で、交付金が絡む原発政策を問題視し、「カネと引き換えに『迷惑施設』を押しつけるやり方が、説明がつかないカネのやり取りを作り上げてきた。徹底的に調べて断ち切らないと、不健全な関係はなくなるなら」と話す。（大浦俊哉）